



納本道友社

勤場所

教祖様は神憑の後、神命のまに／＼施しの道中をお通り下され、只一筋に谷底へ落切り下されましたが、「落切つたら登るより道ない」とも、又「谷底から本道が見える」との「おことば」の如く、文久・元治の頃になつて、漸く教祖様を生神様として尊び、お助けを願ひ出ると共に、その御教に耳を傾ける者が出来かけて來ました。

その頃の事、元治元年五月、本席飯降伊藏翁は妻さと女の産後の患ひの靈救がもとで入信せられる事となりました。櫟本で「千軒きつての正直者」の評判あつた本席様は、

始



その恩報じのため御自身が大工を職とするのを幸ひに、親神様のお社を作つて差上げたい旨を申し出られました。

處が、その時教祖様は「社はいらぬ、一坪四方のもの建てかけてくれ」とのお言葉でありました。よつて本席様は自分一存では決しかね、秀司様にも談じ、小寒様の御指圖も仰ぎ、重立つた方々にも相謀り、その合力を頼むと共に神意を伺ひ、お屋敷の米倉綿倉を取拂ひ、御自分が大工棟梁となり、勤め場所の建築に着手せられました。

元治元年九月十三日には手斧始めをし、翌月二十六日上棟式を行ひ、十二月中旬に至つて落成したのであります。

出来上つた勤め場所は六間に三間半の平屋で、正面六疊

の間は一段高く、上段の間とし、その半分に神床を設け、他の半分は教祖様の御居間として、教祖様は上段左側に座を占めて、諄々として日夜親神様の思召を宣べ傳へられました。これがお道として最初の建物で、同時に又最初の詣り場所ともなつたのであります。

「おふでさき」の中に、

このところつとめばしよハにんけんを

はじめだしたるところなるそや

と仰せられ、尙御神樂歌の中でも

ひのもとしよやしきの

つとめのばしよハよのもとや

とも仰せられて居ります。

茲で述べられて居る「つとめばしよ」は前述の建物だけを仰せられたものではありませんが、當時未だ地場定めが行はれなかつた頃とて、勤め場所が只一つのお詣り場所であり、信仰の中心でありまして、このさゝやかな勤め場所が將來の地場の「きりなしふしん」の土臺となつたのであります。

思へば、神憑りがあつて以來、長年の間教祖様は物を施す道に突進まれ、田地、田畑、家までも賣拂はれて、貧のどん底に落切り下されましたが、教祖様はかうして掃除の出来たお屋敷に神のやかたを建てようとせられたのであり

ます。一切の人の世の埃や汚れから洗ひ清められた上に、美しい「心のふしん」を望まれたのであります。

勤め場所はかくて人々の誠の結晶として出来上りました。「南無天理王命様」への報恩の誠が凝つてもつて一つの形となつたその最初の結晶が勤め場所の建築であります。そして勤め場所は末代までの人々の心の普請の土臺となつたのであります。

ふしぎなつとめばしよハ
たれにたのみはかけねども
みなせかいがよりあうて
でけたちきたるがこれふしぎ

と御神樂歌の中でも仰せられて居りますが、誰に頼んで
るのでないが、皆世界から寄合うて一人手に出来上つて來
るのが不思議や、と仰せられて居るのであります。此の
勤め場所の建築を手始めとして、お道の「ふしぎなふしん」
はきりなしに始められる事となつたのであります。

然しながら、當時の僅かな人々の力を以てこの普請を完
成さす事は容易でなかつたのであります。殊に、上棟式の
日に居合した人々が、山中忠七氏の招きにより大豆越に行
く時、

「神社の前を通る時は拜をして通るやう」
との教祖様のお言葉に従ひ、大和神社の社前で、鳴物入れ

て拜をしたのが咎められて、三日間の留置きになつた事が、
當時の信者に非常なる不安と恐怖を與へ、信者の中にはお
地場に寄りつかぬ者さへ出来ましたが、これが普請の上
大いに影響して一頓挫を來たしたのであります。此の苦し
い中を本席親は普請一切を引受けて仕上げられたのであり
まして、年末には瓦屋や材木屋へ支拂の延期を頼み歩かれ
た事もありました。

明治四十年五月二十一日、本部神殿建築に關しての刻限
のお話の中に

四十五六年以前のものは一坪からはじめかけた。これが
一つ始まり。……………

一坪位なんでもないと云ふやう。かゝりはそんなもの。それを引受けると云うたものは席が云うた。みなその心になれ。

と仰せられて居ります。この勤め場所の普請は後日、本席様が、「本席の座」に直られる大きな理の土臺となるものがあります。この勤め場所の普請は本席様の「心のふしん」を意味し、「形のふしん」と「心のふしん」に就いての尊き教示であると共に、又一つには「引受ける心」に就いての尊い雛形であります。

道の者は此の本席様の雛形を見習ひ、何事に對しても引受けて、我が事としてやらして頂く覺悟を以て通らねばな

りません。

昭和十三年四月十日印刷
昭和十三年四月十五日發行

編纂者 奈良縣丹波市町
敬 右代表者 審 中山慶一會

印刷所 奈良縣丹波市町
天理教印刷所
右代表者 細谷金彦

發行所 奈良縣丹波市町
天理教同道友社
右代表者 岡島善次

終